

「寺家ふるさと村を次の世代に伝えていくために」

～稲垣 真 先生インタビュー～

令和7年2月 15 日、四季の家 野鳥観察会 講師 稲垣 真 先生
にインタビューを行いました。

その際、伺ったお話の概要を紹介します。



【稲垣先生紹介】

○四季の家

今回は 四季の家 野鳥観察会 講師 稲垣 真 先生に、寺家ふるさと村を次の世代に伝えていくために をテーマとしてお話を伺います。自己紹介をお願いいたします。

○稲垣

寺家ふるさと村に長年かよって野鳥の観察を行っております稲垣です。
会社をリタイヤしたあと、東京都の方ですが、何年か生物多様性の保全について、学ばせて頂く機会がありました。そこで学んだことも織り交ぜながら、今日のお話をさせて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【寺家ふるさと村の魅力】

○四季の家

ふるさと村では年間を通じて多くの野鳥を見ることができます。里山があり 谷戸田があり いくつかの ため池があります。鶴見川の支流である 谷本川も流れています。様々な野鳥を観察できる環境がここにはあります。

四季の家の野鳥観察会は稲垣先生そして寺家野鳥の会の皆様のご協力によりまして、毎回大好評です。
稲垣先生からふるさと村の魅力についてお話いただけますか。

○稲垣

まずは 交通が大変 便利なことですね。駅から市街地を抜けてすぐ、バスを降りた途端、目の前に別世界のような里山の風景が広がる、そんな所はなかなかありません。

しかも農家の方々のご理解とご協力によって、その景観を楽しみながら、谷戸の奥まで自由に散策することができる、それが一番の魅力ではないでしょうか。

隣接する町田市三輪町の里山と子供の国にまたがる広大な緑地が、希少種を含む生物多様性を育んできました。三輪町の里山を含めると、毎年 100 種類を超える野鳥が観察されるなど、動植物にとって、大変恵まれた環境にあります。

田園風景を気軽に楽しめるだけでなく、身近に豊かな自然と触れ合うことが出来る、素晴らしい場所です。

【寺家ふるさと村の理想像】

○四季の家

今なお、これだけ豊かな自然が残るふるさと村ではありますが、稲垣先生からすると変化も感じているか
と思います。稲垣先生から見て、ふるさと村の理想の姿について、お考えを伺いたいと思います。

また、鳥たちにとって理想的なふるさと村はどのようなものなのでしょうか。

○稲垣

私は訪問者として寺家ふるさと村を見てきましたので、地元の方々のお考えと一致しているかどうかは分かりませんが、あくまでも自然サイドから見たお話をさせていただきます。

私にとっての理想の姿は、かつてこの地にあった、生物多様性に富んだ里山そのものです。

鳥に限らず全ての生き物にとって管理された里山は自然のオアシス。その豊かさが年々失われつつあることを、大変危惧しています。

皆さんは寺家ふるさと村 憲章をご存じでしょうか？

その中の一文に、「自然や農業は私たちにとって宝物だ。」と書かれています。いつまでも、田んぼや畑の営みと自然が共存する場所、自然との触れ合いを大切にする場所、未来のこどもたちに自然の大切さを伝えていく場所、であり続けて欲しいと思っています。

【寺家ふるさと村の課題と取組み】

○四季の家

これからもずっと、多くの野鳥たちが来てくれる ふるさと村を維持していくためには どういったことが課題で、それにどのように取り組んでいったら良いのでしょうか？

○稲垣

私がこの地に越してきた 27 年前の里山には、もっともっと豊かな生態系が維持されていました。

それが、こんにちに至るまでの間に、昆虫の数が激減し、高次の捕食者である鳥の数も、目に見えて少なくなっていました。

それには温暖化の影響をはじめ、様々な要因がかさなっているのでしょう。中でも笹刈りが定期的に行われなくなったことと、クヌギ・コナラ主体の明るい雑木林が長年、更新されずに放置された結果、次第に活力を失い、シラカシ主体の暗い森に遷移しつつあること。それが、大きな要因のひとつだと考えています。

ここに 1987 年発行の「寺家の自然」という本があります。当時の里山の様子や、生態系を詳しく知ることが出来る貴重な資料です。これを読むと、ふるさと村の発足当時から笹刈りが定期的に行われ、動植物の宝庫になって行ったことがよくわかります。

明るい雑木林は、植物の種類を豊富にし、落ち葉が生き物の住む土壌を作ります。昆虫や木の実など鳥の食べ物を増やし、生態系全体が豊かになっていきます。

当時の生態系を復元することはもはや困難でしょう。しかし動植物の住む環境を整えることはできる筈です。

喫緊の課題としては、まずふるさとの森を覆ってしまったアズマネザサを刈って、明るい林床を取り戻すことです。笹は一様に刈ってしまうのではなく、蘭など貴重な植物を見分けて保護しなければなりません。また、笹藪を必要とする生き物のために刈らないゾーンを残すことも大切です。

それから、定期的にエリアを区切って雑木林を更新させていくことだと考えます。

また、真竹がこれ以上森を侵食しないよう、ここでくいとめなくてはなりません。このままほっておくと、森が次々に死んで行ってしまうです。

ふるさと村の里山は、ため池、その奥に湿地、湧き水が下を流れる針葉樹林、雑木林、草地など様々な環境から成り立っています。

それらをゾーニングして、エリア毎に望ましい環境を整え、維持していく必要があるでしょう。



姿を消してしまった国蝶オオムラサキ



かつては普通に見られた国鳥キジ



20 年前の梅林と丘陵



現在の梅林と丘陵



20 年前のむじな池



ふるさとの森を覆ったアズマネザサ



雑木林を侵食する真竹

本年度「寺家みらいプロジェクト」が発足し、農地と里山の保全・再生に向けた活動がスタートしたと伺い、大変心強く思っています。

幸い、ふるさと村には、植物・昆虫・野鳥・水辺の生き物・菌類などそれぞれの分野で専門的な知見を持った方が来ておられます。各専門のかたの意見も取り入れ、望ましい保全のやり方を考えて頂きたいですね。

【稲垣先生からのメッセージ】

○四季の家

それでは ここで 稲垣先生から、市民の皆さん、ふるさと村を訪れる皆さんに伝えたいこと、お願いしたいことなど、メッセージをお願いいたします。

○稲垣

新型コロナが流行して以来、寺家ふるさと村を訪れるかたが大変多くなりました。近場で自然に親しめる場所として広く知られるようになったのでしょう。皆さんにお願いしたいことが三つあります。自然をやさしく見守って頂きたいこと、農地を荒らさないで頂きたいこと、外から持ち込まないで頂きたいこと、の三つです。

植物や生き物は見て楽しむもの、取ったり持ち帰ることは決してなさらないでください。また、野鳥を撮影する時は、追いかけたり、近付き過ぎたりして、ストレスを与えないよう、鳥への配慮をお願いします。

田んぼや畑は耕作されている方の大切な財産です。耕作中は絶対に、あぜや畑に立ち入らないでください。アライグマなど外来の生き物が増えて、生態系に深刻な影響を及ぼしています。

飼いきれなくなったペットを、決して放さないでください。

最後になりますが、先ほど触れました、寺家みらいプロジェクトについて、もうひとつこと。

この貴重な里山を保全し、再生させていくには多くの方々のお力が欠かせません。

寺家ふるさと村を利用されている市民の皆さんには、是非関心を持って頂き、出来る範囲で、活動の輪に加わって頂きたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○四季の家

ただいま 稲垣先生のお話の中に アライグマがいて 生態系に影響するというお話がございました。むじな池から流れる水路に ここにはいるはずのない カミツキガメ ワニガメが相次いで発見されたことがありました。生態系に影響する それはもちろんのことですが、危険な生物でもあります。こういう外来の生物を持ち込むことは絶対にやめていただきたいと思います。

もう一つですが この地域の課題として路上駐車の問題があります。

ふるさと村にお出かけの際には なるべく 公共交通機関をご利用いただきたいと思います。

ふるさと村を訪れる皆さんは癒しを求めて この心和む風景 豊かな自然に触れようと 足を運んで来られるかと思います。

この間 地元 寺家町の皆さんは定期的な清掃活動や農業体験の機会提供など、ふるさと村の維持に勤めてこられました。

横浜市も 農業振興 そしてこの豊かな自然の保全に取り組んできました。

その拠点となる施設が私ども四季の家です。

稲垣先生から寺家みらいプロジェクトのお話がありました。

これは横浜市が地元の皆さん 市民の皆さんに呼びかけて 寺家ふるさと村の未来を考え、ともに行動していくという新たな取り組みです。

ぜひ 市民の皆さんには関心を寄せていただきまして、できたら参画していただければと思います。